

米軍における軍事専門職教育（JPME/PME）の改革

— 教訓としての作戦術の導入と戦略的思考の強化 —

中村 大介

はじめに

我が国を取り巻く安全保障環境は、北朝鮮の核・ミサイル開発や中国の軍事力増強と積極的な海洋進出に加え、テロの脅威やサイバー空間の安定的利用に対するリスクの増大等、様々な課題や不安定要因がより顕在化・先鋭化してきている¹。このような状況において、防衛省・自衛隊には、長期化するいわゆるグレーゾーン事態の対処を継続しつつ、武力攻撃事態等への備えや災害派遣、国際平和協力活動等に対応するとともに、サイバー空間や宇宙空間といった、新たなドメインでの活動を含めた多種多様な能力や役割が求められており、限られた人材の最大限有効活用がますます重要になってきている。一方で、我が国の同盟国である米国は、グローバルなパワーバランスの変化をはじめとした新たな安全保障環境の下、世界への関わり方を大きく変化させるなか、米軍の優位性の維持・拡大を狙いとした「第3のオフセット戦略（Third Offset Strategy : TOS）」を推進している²。なお、TOSの基となった国防省の国防改革指針（Defense Innovation Initiative）では、研究開発上の取り組みだけでなく、組織改革や人材育成もその柱に据えられている³。

このように、日米の安全保障環境を概観すると、人材の活用や育成は日米双方にとっての課題の一つであると言える。しかし、公開情報の多少の影響か、関連する議論は米国において活発であり、なかでも、統合軍事専門職教育（Joint Professional Military Education : JPME）又は軍事専門職教育（Professional Military Education : PME）に関する研究が多数行

¹ 防衛省『平成29年版 日本の防衛』2017年、29頁。

² 同上、70頁。

³ Secretary of Defense, “Memorandum for Deputy Secretary of Defense et al., Subject: The Defense Innovation Initiative,” OSD013411-14, Nov 15, 2014, archive.defense.gov/pubs/OSD013411-14.pdf; 森聡「米国の『オフセット戦略』と『国防革新イニシアティブ』『国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係米国の対外政策に影響を与える国内的諸要因』日本国際問題研究所、2016年、59頁。

われている⁴。ただし、日本における米軍 JPME/PME に関する研究は殆ど行われていない。

日米同盟の重要性に鑑みれば、米軍 JPME/PME をテーマとした研究は大いに意義があると考えられる。では、米軍 JPME/PME は、何を背景として、どのような変遷をたどっているのだろうか。そして、その変遷から我々は何を学ぶことができるのであろうか。

スティール (William M. Steele) とクピシェフスキー (Robert B. Kupiszewski) は、「統合教育：我々はここからどこへ行くのか? (Joint Education: Where Do We Go From Here?)」において、ゴールドウォーター・ニコルズ国防省改革法 (Goldwater-Nichols Department of Defense Reorganization Act : GNA) による JPME/PME 改革の成果を踏まえつつ、JPME/PME がさらに進展していくことの重要性を述べている⁵。また、チルコート (Richard A. Chilcoat) は、「軍事教育の改革 (The Revolution in Military Education)」において、20 世紀の PME の変化を踏まえつつ、21 世紀に向けた軍事教育改革の重要性とともに、JPME が時代に応じて継続変化していく必要性を述べている⁶。これらは、いずれも JPME/PME が継続して進展(変革)していく重要性を述べている一方で、米海兵隊という組織が自己革新組織であるということを解明した野中郁次郎のように、組織の自己改革に着目しているわけではない⁷。

そこで、本稿は、米軍 PME が形作られた 19 世紀後半から現在までの米軍 JPME/PME の変遷をたどるとともに、なぜそのような変化が起こったのかを考察することで、教育の視点から、米軍が学習する組織として自己革新を続けていることを明らかにする。なかでも、今後の安全保障環境が、より複雑、不確実で、急速かつダイナミックに変化すると予測されていることを踏まえ、導かれた結論ではなく、結論を導く方法論に焦点を当てる⁸。

⁴ 国防総合大学 (National Defense University : NDU) の機関誌である *JFQ* (*Joint Force Quarterly*) では、2014 年から「JPME Today」と題した特集で JPME に関する記事を複数連載し、JPME/PME に関する議論を活発化させている。

⁵ William M. Steele and Robert B. Kupiszewski, “Joint Education: Where Do We Go From Here?,” *Joint Force Quarterly*, No. 3, Jun 1994, pp. 63-70.

⁶ Richard A. Chilcoat, “The Revolution in Military Education,” *Joint Force Quarterly*, No. 22, Aug 1999, pp. 59-63.

⁷ 野中郁次郎『アメリカ海兵隊 非営利型組織の自己革新』中公新書、1995 年。

⁸ 今後の安全保障環境の記述については、Chairman of the Joint Chiefs of Staff, “Capstone Concept for Joint Operations: Joint Force 2020,” Sep 10, 2012, p. 15, www.dtic.mil/doctrine/concepts/ccjo_jointforce2020.pdf, accessed Sep 5, 2017 を参照した。

このため、本稿では、第 1 節において米軍 JPME/PME の変遷を概観するとともに、ベトナム戦争での敗北、湾岸戦争での成功、対テロ戦争の苦難といった大きなうねりの中で、結論を導く方法論として、「作戦術 (Operational Art)」及び「戦略的思考 (Strategic Thinking)」がどのように JPME/PME に取り込まれていったのかについて、それぞれ第 2 節及び第 3 節で考察する。

1 米軍 JPME/PME の変遷

米軍では、PME を「幅広い知識を伝え、戦争の術と科学における軍事専門家の専門知識に不可欠な習慣を確立するもの」、JPME を「統合士官管理 (Joint Officer Management : JOM) のための教育要件をサポートする統合参謀本部議長承認の、目的、成果、方針、手続及び基準」と定義している⁹。本節では、米軍 JPME/PME の変遷を概観する。

(1) ゴールドウォーター・ニコルズ法以前の JPME/PME

1861 年、米国で南北戦争が勃発した際、戦場における最新の実戦経験を持つ専門職の軍人は、北軍にも南軍にもごく少人数しかいなかった¹⁰。当時、米陸軍士官学校 (U.S. Military Academy : USMA) での教育は行われていたが、卒業後の士官が正規の軍事教育を受けることはなかったため、将校は電信や鉄道、甲鉄船といった革新的技術の登場に、多くの命と引き換えで学習することを強いられた¹¹。こうした状況を打破すべく、1884 年、「米海軍に考えることを教えた」と言われたルース (Stephen B. Luce) を中心に、米海軍大学 (U.S. Naval War College) が設立され、「戦争の術と科学」を教授するという、以前とは比較にならない専門職としての軍事教育へ発展した¹²。一方、陸軍は、1881 年に大部隊の戦術を教育する歩騎

⁹ Chairman of the Joint Chiefs of Staff Instruction, “Officer Professional Military Education Policy,” CJCSI 1800.01E, May 29, 2015, pp. GL-7, GL-9, www.dtic.mil/doctrine/education/officer_JPME/cjcsi1800_01e.pdf, accessed Jul 31, 2017.

¹⁰ リチャード・ハート・シンレイチ「仲の悪い相棒—軍事史とアメリカ軍の教育制度」ウィリアムソン・マーレー、リチャード・ハート・シンレイチ編『歴史と戦略の本質 (上) 歴史の英知に学ぶ軍事文化』今村信哉監訳、原書房、2011 年、111-112 頁。

¹¹ 同上、112 頁。

¹² サミュエル・P・ハンチントン『軍人と国家 上』市川良一訳、原書房、1978 年、226 頁；北川敬三「ネイバルアカデミズムの誕生—スティーブン・ルースの海軍改

兵学校(後の陸軍指揮幕僚大学(U.S. Army Command and Staff College))を設立するとともに、1903年、海軍の動きに追随する形で陸軍大学(Army War College)を設立した¹³。こうして、士官学校卒業後の中級と上級のコースが設けられ、米軍におけるPMEの原型が形作られた。

第二次世界大戦中、米軍が統合作戦で同盟国と協力することに曝されたことを受け、軍事指導部は士官が統合や連合作戦で訓練、教育されることが極めて重要であることを見出し、1943年に陸海軍幕僚大学(Army-Navy Staff College: ANSC)を設立した¹⁴。その後、1946年にANSCは国防大学(National War College: NWC)に進化するとともに、同年、佐官クラスのための軍事幕僚大学(Armed Forces Staff College: AFSC、現在のJoint Forces Staff College)が設立され、JPMEの原型が形作られた¹⁵。

(2) ゴールドウォーター・ニコルズ法によるJPME/PMEの変革

1980年代初めまでに、ベトナム戦争やイランでの人質救出作戦、グレナダ侵攻等、多くの統合作戦が成功しなかったことで、国防省の統合作戦実行能力が疑問視され、1986年、GNAにより、幅広い改革が行われた¹⁶。GNAは統合軍や統合参謀本部議長の権限強化を含め、国防省を再編成し、統合の環境における訓練と運営のための各軍種に対する最初の正式な要件を確立するとともに、統合職の幹部に適切な教育を提供することなどが目標として設定された¹⁷。また、統合参謀本部議長の支援と助言を受け国防

革) 田所昌幸・阿川尚之編『海洋国家としてのアメリカ: パクス・アメリカーナへの道』千倉書房、2013年、61-86頁; 北川敬三「明治期日本海軍の課題と高等教育—海軍大学校の創設・改革と海軍の知的態度—」『軍事史学』第48巻第4号、2013年、123頁; シンレイチ「仲の悪い相棒」112頁。

¹³ シンレイチ「仲の悪い相棒」113頁; Chilcoat, "The Revolution in ME," p. 59.

¹⁴ Kristy N. Kamarck, "Goldwater-Nichols and the Evolution of Officer Joint Professional Military Education (JPME)," Congressional Research Service, Jan 13, 2016, p. 1, fas.org/sgp/crs/natsec/R44340.pdf; John W. Yaeger, "The Origins of Joint Professional Military Education," *Joint Force Quarterly*, No. 37, Apr 2005, p. 76.

¹⁵ Kamarck, "Evolution of Officer JPME," p. 1.

¹⁶ Ibid., p. 2; Vincent K. Brooks, "Knowledge is the Key: Educating, Training, and Developing Operational Artists for the 21st Century," United States Army Command and General Staff College, May 12, 1992, p. 5, www.dtic.mil/get-tr-doc/pdf?AD=ADA254124.

¹⁷ 99th Congress, "Goldwater-Nichols Department of Defense Reorganization Act of 1986," Public Law 99-433, Oct 1, 1986, history.defense.gov/Portals/70/Documents/dod_reforms/Goldwater-NicholsDoDReordAct1986.pdf; Ike Skelton, "Taking Stock of the New Joint Age," *Joint Force Quarterly*, No. 3, Jun 1994, p. 16; Kamarck, "Evolution of Officer JPME," pp. 2-3.

長官が定期的に NDU 等のカリキュラムを見直すことや軍種学校のカリキュラムを卒業生が統合の任務に従事するために適切に準備されるよう見直すことなどが JPME の要件として規定された¹⁸。

GNA により統合運用が本格化した、JPME を軌道に乗せる上で、スケルトン (Ike Skelton) 議員の尽力が大きな役割を果たした。スケルトンは、各軍が戦略的に行動するには GNA では不十分であるため、軍の教育システムの強化が必要であると主張した¹⁹。

スケルトンが代表を務めた、いわゆるスケルトン・パネル (Skelton Panel) は、1987 年から 1989 年に 48 名の証人と 28 回のヒアリングを行い、軍種大学に続き AFSC で教育するという、2 段階による統合専門士官 (Joint Specialist Officer) の教育プロセスを確立することを提言した²⁰。じ後、下院軍事委員会は追加ヒアリングを行い、1990-1991 会計年度国防権限法 (National Defense Authorization Act : NDAA) において、議会として国防長官に JPME の枠組み確立を要請した²¹。なお、1994 会計年度 NDAA では軍事学校の役割として、PME を行う各軍種学校の第一の任務は、各軍士官に各軍種の戦闘専門家としての主要素を深く理解させることであり、JPME を行う学校の第一の任務は、軍士官に国家安全保障戦略、国家軍事戦略、戦略計画と緊急計画及び統合軍における指揮統制を含む、陸、海、空軍の統合の職務の専門知識を提供することであるとされた²²。

他方、1990 年には統合参謀本部議長から軍事教育方針 (Military Education Policy Document : MEPD) が発出され、1993 年の改訂後、1996 年からは士官に対する JPME/PME の方針、手順、目標、責任等を記載した「士官軍事専門職教育の方針 (Officer Professional Military Education Policy : OPMEP)」が統合参謀本部議長から発出されるように

¹⁸ 99th Congress, “GNA of 1986,” p. 1027; Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 3.

¹⁹ Harold R. Winton, “Ike Skelton, 1931-2013: Champion of Military Education,” *Joint Force Quarterly*, No. 73, Apr 2014, p. 4.

²⁰ Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 4; Skelton, “Taking Stock,” pp. 16-17.

²¹ Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 4; 101st Congress, “National Defense Authorization Act for Fiscal Years 1990 and 1991,” Public Law 101-189, Nov 29, 1989, p. 1555, www.gpo.gov/fdsys/pkg/STATUTE-103/pdf/STATUTE-103-Pg1352.pdf.

²² Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 5; 103rd Congress of the United States of America, “National Defense Authorization Act for Fiscal Year 1994,” Jan 5, 1993, p. 184, www.congress.gov/103/bills/hr2401/BILLS-103hr2401enr.pdf.

なるなど、GNA から約 10 年間をかけて JPME/PME が概整された²³。

(3) JPME/PME の進展

GNA による改革から 20 周年が近づくとつれ、国防省と議会の中には、ドクトリンや作戦の変化を反映して JOM も進化すべきではという疑問が呈されるようになった²⁴。会計検査院 (Government Accountability Office) の勧告やシンクタンクとして有名な RAND 研究所による調査等を踏まえつつ、2005 会計年度 NDAA では、JOM と JPME のための戦略的計画策定を国防省に要求するとともに、合衆国法典第 10 編 (Title 10 United States Code) に「Professional Military Education」を新設し、JPME の定義、キャップストーン・コースの要件等を規定した²⁵。これにより、JPME におけるフェーズ I・II 及びキャップストーン・コースという流れの段階的アプローチが確立された²⁶。なお、国防省は 2007 年に新たな統合資格制度 (Joint Qualification System) の実施計画を発表し、4 つのレベルの統合資格を確立するとともに、資格要件を明確にすることで、教育と補職の標準的なキャリアパスを示した²⁷。

2010 年、下院軍事委員会の下部小委員会は、対テロ戦争を背景とした複雑かつ進化しつつある国家安全保障の課題の中で、JPME/PME が軍事的ニーズに十分に対応しているかどうかを評価した報告を発表した²⁸。この

²³ Steele and Kupiszewski, “Joint Education,” p. 65; Chairman of the Joint Chiefs of Staff Instruction, “Officer Professional Military Education Policy,” CJCSI 1800.01, Mar 1, 1996, webapp1.dlib.indiana.edu/virtual_disk_library/index.cgi/4240529/FID2862/pdf/docs/jel/cjcs/1800_01.pdf.

²⁴ Harry J. Thie et al., “Framing a Strategic Approach for Joint Officer Management,” RAND Corporation, 2005, pp. 5-6, www.rand.org/content/dam/rand/pubs/monographs/2005/RAND_MG306.pdf.

²⁵ Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” pp. 6-7; Thie et al., “Framing for JOM,” p. 92; 108th Congress, “Ronald W. Reagan National Defense Authorization Act for Fiscal Year 2005,” Public Law 108-375, Oct 28, 2004, p. 1895, www.gpo.gov/fdsys/pkg/PLAW-108publ375/pdf/PLAW-108publ375.pdf.

²⁶ Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 7.

²⁷ Ibid., p. 7; Department of Defense, “Joint Officer Management; Joint Qualification System Implementation Plan,” Mar 30, 2007, p. A-2, archive.defense.gov/transformation/documents/JOMJQSIImplementationPlan.doc; Department of Defense Instruction, “DOD Joint Officer Management (JOM) Program,” No. 1300.19, Mar 4, 2014, p. 15, prhome.defense.gov/Portals/52/Documents/PR%20Docs/JOM%20DoDI%201300_19%20updated%204%20Mar%202014.pdf.

²⁸ U.S. House of Representatives·Committee on Armed Services, Subcommittee on Oversight and Investigations, “Another Crossroads? Professional Military Education Two Decades after the Goldwater-Nichols Act and the Skelton Panel,”

報告では、JPME/PME が動的な国家安全保障環境下で運用されることを踏まえ、現在と将来の課題を予測し適応させるには、士官のキャリアの早い段階から統合についての教育を行うことや戦略教育を尊重すること等、改善が必要な領域の提言が行われた²⁹。

2012 年には、統合参謀本部議長から白書が発行され、9.11 以降のイラクとアフガニスタンでの経験を踏まえ、リーダーシップは軍事専門職における基礎であり、世界で最も優れた軍隊を維持するために不可欠な要素であるとした上で、戦略的環境の変化に対応するために必要な価値観、戦略的ビジョン及び批判的思考力 (critical thinking skills) を備えた「機敏で適応力のあるリーダー (agile and adaptive leaders)」を育成する重要性が述べられた³⁰。また、2013 年には統合参謀本部議長から各軍種の参謀長等に対して「リーダーの特性 (Desired Leader Attributes : DLAs)」に関する覚書が発出され、6 つの士官に対する DLAs が挙げられた³¹。これを受け、2015 年の OPMEP 改訂版では、別紙の教育体系に示すように、JPME/PME 全体の共通事項として、ほぼ同様の 6 つの DLAs が明示されている³²。

ここまで米軍 JPME/PME の変遷を概観したが、GNA と対テロ戦争が JPME/PME の変化に大きな影響を与えたことがわかる。

committee print 111-4, Apr 2010, democrats-armedservices.house.gov/_cache/files/d/4/d4748d4a-b358-49d7-8c9a-aa0ba6f581a6/9CD703283AA6E9834590F617199B66CB.pmereport050610.pdf, accessed Jul 31, 2017; Kamarck, “Evolution of Officer JPME,” p. 8.

²⁹ U.S. HRCAS, “Another Crossroads?,” pp. xi-xv.

³⁰ Chairman of the Joint Chiefs of Staff, “America’s Military – A Profession of Arms White Paper,” 2012, p. 3, www.dtic.mil/doctrine/concepts/white_papers/cjcs_wp_profession.pdf, accessed Aug 8, 2017; Chairman of the Joint Chiefs of Staff, “Joint Education White Paper,” Jul 16, 2012, p. 3, www.dtic.mil/doctrine/concepts/white_papers/cjcs_wp_education.pdf, accessed Aug 8, 2017.

³¹ Chairman of the Joint Chiefs of Staff, “Memorandum for Chiefs of the Military Services et al., Subject: Desired Leader Attributes for Joint Force 2020,” CM-0166-13, Jun 28, 2013, www.ndu.edu/Portals/59/Documents/BOV_Documents/2014/CJCS%20Joint%20Education%20Review%20Implementation%20Memo%20only.pdf.

³² CJCSI, “OPMEP,” CJCSI 1800.01E, A-A-A-1.

2 JPME/PME と作戦術

米軍 JPME/PME に大きな影響を与えた一つである GNA の発端は、多くの統合作戦が成功しなかったことであるが、なかでも、ベトナム戦争は米国にとって様々な教訓を残している。本節では、それまで教育カリキュラムにも反映されていなかった結論を導く方法論としての作戦術が、ベトナム戦争の教訓の一つとして、どのように JPME/PME に反映されていたのかについて考察する。

(1) ベトナム戦争の教訓としての作戦術

1964 年 8 月の米軍艦が攻撃を受けたトンキン湾事件を契機として、米国はベトナムにおける大規模軍事介入を行った。なかでも、北ベトナムに対して行われた、いわゆる北爆は途中十数回の休止期間を置きながら 8 年以上続けられ、1973 年初め、北ベトナム首脳に「独立以外の全てを失った」と言わしめるほどであった³³。また、テト攻勢と呼ばれる 1968 年の共産陣営約 8 万名による一斉攻撃では、自由陣営で約 4 千名の戦死者を出したものの、自由陣営の反撃で共産陣営に約 10 倍の戦死者を強要し、その攻撃を退けている³⁴。さらに、テト攻勢と同時期に行われ、米軍と北ベトナム軍の正面対決であったとされるケサンの戦いでは、米海兵隊が完全に北ベトナム軍に包囲されていたものの、米軍の爆撃機延べ約 3 万機の出撃をはじめとした大規模な空軍力の投入により、北ベトナム軍戦力を退けている³⁵。しかし、最終的に米国はベトナム戦争に勝利することはできなかった。

米国ではベトナム戦争について、主要な戦場で負けていないという事実もあり、卓越した力や技術を有していたが勝利できなかった理由を軍事的側面のみで説明することはできなかった³⁶。そこで米軍は、『孫子』やクラウゼヴィッツ (Carl von Clausewitz) の『戦争論』といった戦略と戦争に関する古典のなかに答えを探し始めた³⁷。その中で注目されたものの一つが、戦略目標と戦術行動を繋ぐ方法論、結論を導く方法論である作戦術であった³⁸。

³³ 三野正洋『わかりやすいベトナム戦争』光人社、1999 年、236-239 頁。

³⁴ 同上、175-179 頁。

³⁵ 同上、180-185 頁。

³⁶ マイケル・ハンデル『戦争の達人たち』防衛研究所翻訳グループ訳、原書房、1994 年、14 頁。

³⁷ 同上、14-15 頁。

³⁸ 北川敬三「知的組織としての英軍の変容—『作戦術』とドクトリン制度化の視点

従来、戦略と戦術を繋ぐ中間の次元の概念は明確でなく、ベトナム戦争では政治と軍事の領域が曖昧であったことから、戦場の現場指揮官が判断すべき攻撃目標までを本国ワシントンの大統領が判断するという事態に陥ったことにより、国家戦略の実現に専念すべき最高指揮官が全体像を見失い、現地の米軍は漂流することになった³⁹。このような状況を回避するため、中央と現場を媒介するのが作戦次元を司る作戦術であり、この概念が軍事的可能性を明確にし、戦略的目標を現実的なものにするとされた⁴⁰。

ただし、作戦次元や作戦術の概念は、ベトナム戦争によって生まれたわけではない。そもそも、作戦術は、19世紀初頭のナポレオン戦争の時代には大部隊運用のノウハウとして暗黙的に認知されており、戦間期のソ連軍において明示的に理論化され、ベトナム戦争を経て軍事理論及び組織の再建が急務となっていた米国で発展したものである⁴¹。しかし、ベトナム戦争が作戦術の勃興の要因の一つとなったことは事実であり、作戦術はベトナム戦争の教訓から生まれたということが言える。なお、現在の米軍では、作戦術を「目的、方法、手段を統合して、軍隊を編成・運用する戦略、戦役及び作戦を開発するための、指揮官と幕僚による技術、知識、経験、創造性、判断をもって行う認知的アプローチ」と定義している⁴²。まさしく作戦術は戦略と戦術を繋ぐ作戦を生み出す方法論、結論を導く方法論なのである。

(2) JPME/PMEにおける作戦術の導入

作戦術が、どのように JPME/PME に組み込まれていったかを考察するうえで、ドクトリンを無視することはできない。米陸軍が作戦術をドクトリンに反映するに至った背景には、ベトナム戦争だけでなく、第4次中東戦争で見られたような兵器を含めた将来の戦争で活用されることが予測される技術の進展、そして、欧州における北大西洋条約機構軍とワルシャワ条約機構軍との対峙で生まれた1976年版陸軍作戦教範 (FM100-5) における「積極防御 (Active Defense)」構想への反動、という3つの大きな

から『防衛学研究』第56号、日本防衛学会、2017年3月、41頁。

³⁹ 北川敏三「安全保障研究としての『作戦術』—その意義と必要性」『国際安全保障』第44巻第4号、2017年3月、103頁。

⁴⁰ 同上、103頁。

⁴¹ 同上、93頁。

⁴² 作戦術の定義は、Joint Chiefs of Staff, *Joint Operations*, Joint Publication 3-0, Jan 17, 2017, p. GL-13, www.dtic.mil/doctrine/new_pubs/jp3_0_20170117.pdf, accessed Aug 9, 2017 を参照した。

要因があった⁴³。じ後、1982年版 FM100-5 では作戦次元の概念が導入されるとともに、1986年版 FM100-5 では作戦術の概念が遂にドクトリンに正式導入されたが、ドクトリンに採用した作戦次元、作戦術を真に機能する概念にするには、教育制度の改革が必要であった⁴⁴。

1983年、陸軍は高等軍事学大学院（School of Advanced Military Studies : SAMS）において、作戦術を学んだ計画立案者又は実務者としての士官を輩出する教育を開始した⁴⁵。コースの教育方法としては、セミナーでの討議、実践的な演習、広範な読解と省察、専門家による特別講義、独立した研究と執筆、学問的学習を強化するための研修等があり、作戦術の理解のため、伝統的な軍事思想と理論、特にクラウゼヴィッツの『戦争論』を学び直し、戦史及びシミュレーションの両面から大規模な部隊運用を検証する教育が実施された⁴⁶。なかでも、中級コースでは、戦争の性質・実行・原因から政治学の概要等の幅広い理論的基盤、大隊から部隊レベルの詳細な戦術行動及び作戦術の歴史的基礎に加え、実習やケーススタディ等による作戦術の実践を行うとともに、それらの教訓を将来の戦争ビジョンに適用することで戦争に備えるといった5つの主要な構成となっていた⁴⁷。

SAMSと同様の教育について、海兵隊では1990年から高等戦闘学校（School of Advanced Warfighting : SAW）で、空軍では1991年から高等エアパワー学大学院（School of Advanced Airpower Studies : SAAS、現在はSchool of Advanced Air and Space Studies）でそれぞれ開始されている⁴⁸。

時系列的に整理すると、SAMS以外の教育は、1986年のGNAや1990年の統合参謀本部議長からのMEPD発出後に開始されたことになるため、

⁴³ Bruce W. Menning, “Operational Art’s Origins,” Michael D. Krause, R. Cody Phillips, *Historical Perspectives of the Operational Art*, Center of Military History United States Army, 2005, pp. 13-14; 佐川詳二「作戦術 (Operational Art) とは一歴史の変遷から見るその本質— (1/2)」『鵬友』第39巻4号、2013年11月、51頁。

⁴⁴ 佐川「作戦術とは (1/2)」52-55頁; 片岡徹也「古典用兵思想から軍の革新へ (第5回) 一創造の方法論を求めて (戦争の作戦的次元、作戦的視点) 一」『鵬友』第36巻6号、2011年3月、31頁。

⁴⁵ Brooks, “Knowledge is the Key,” p. 17; Leonard D. Holder, Jr. and Williamson Murray, “Prospects for Military Education,” *Joint Force Quarterly*, No. 18, Jun 1998, p. 84.

⁴⁶ Brooks, “Knowledge is the Key,” pp. 17-18; 佐川「作戦術とは (1/2)」55頁。

⁴⁷ Brooks, “Knowledge is the Key,” pp. 17-18.

⁴⁸ *Ibid.*, pp. 19-22; Holder and Murray, “Prospects for ME,” p. 84.

1990年以降になって、JPME/PMEに作戦術が組み込まれたということになる。

(3) 作戦術の成果としての「砂漠の嵐」作戦

1991年の湾岸戦争での「砂漠の嵐 (Desert Storm)」作戦は米軍事史上、最も成功した戦役 (campaign) と言われるが、これは作戦術の勝利でもあった⁴⁹。

中央軍 (Central Command) 司令官だったシュワルツコフ (Herbert Norman Schwarzkopf Jr.) 大将に提示された最初の計画は、血の海を彷彿とさせるような正面攻撃の外観をもっており、中央軍での図上演習の結果、最大で4万人の死傷者が見積もられたため、計画の見直しが求められた⁵⁰。シュワルツコフは、後に「ジェダイの騎士 (Jedi Knights)」として知られることになった小さなセルを作り、自身の信頼できる頭脳として作戦計画を立案させた⁵¹。この「ジェダイの騎士」は、「5リング・モデル」を提唱したことで有名なワーデン (John A. Warden III) 大佐と4人のSAMSの卒業生で構成されていた⁵²。なお、ワーデンは、NWCの学生時代に『航空作戦：戦うための計画 (The Air Campaign: Planning for Combat)』を著す等、エアパワーの作戦に精通した人物であり、SAMSの卒業生とともに、「砂漠の嵐」作戦計画の見直しに尽力した⁵³。

実際の作戦では、当初の航空作戦「インスタント・サンダー (Instant Thunder)」により、イラクの複数の重心に対して同時並行的に精密攻撃を行い、じ後の地上戦に有利な作戦環境が創出された⁵⁴。また、続く地上戦は「レフトフック」と称され、クウェート正面の敵を抑制 (陽動) しつつ、イラク西部からの大規模な迂回機動により、敵包囲のための縦深進攻、そして背後からの敵戦力殲滅といった古典的な作戦術の応用が実演された⁵⁵。これらには、作戦術の熟練者としての「ジェダイの騎士」の影響が読

⁴⁹ 北川「安全保障研究としての『作戦術』」101頁。

⁵⁰ Frank N. Schubert and Theresa L. Kraus, *The Whirlwind War*, p. 107; 源田孝『アメリカ空軍の歴史と戦略』芙蓉書房出版、2008年、161-162頁；佐川「作戦術とは (1/2)」57頁。

⁵¹ Robert H. Scales, “Return of the Jedi,” *Armed Forces Journal*, Oct 1, 2009, armedforcesjournal.com/return-of-the-jedi/.

⁵² Schubert and Kraus, *The Whirlwind War*, p. 102.

⁵³ David R. Mets, *The Air Campaign John Warden and the Classical Airpower Theorists*, Air University Press, Apr 1999, p. 56.

⁵⁴ 佐川「作戦術とは (1/2)」57頁。

⁵⁵ 同上、57頁；Justin Kelly and Mike Brennan, *Alien: How Operational Art Devoured Strategy*, Sep 2009, pp. 68-69.

み取れる⁵⁶。

現在では、「砂漠の嵐」における失敗も語られるが、作戦術により「砂漠の嵐」の作戦計画が見直され、大きな成果を収めたことは事実である。そして、「砂漠の嵐」を通じて、作戦術の意義が浸透したことにより、JPME/PME への作戦術の反映を加速させたであろう。

3 JPME/PME と戦略的思考

米軍 JPME/PME に大きな影響を与えたものとして、第 2 節ではベトナム戦争の教訓の一つである作戦術を考察した。作戦術の導入により「砂漠の嵐」で成果を収めた米軍であったが、対テロ戦争では多くの困難に直面することとなった。そこで、本節では第 1 節で概観した、9.11 以降のイラクとアフガニスタンでの経験をより詳細に考察し、戦略的思考が強調されるに至った背景等を明らかにする。

(1) 対テロ戦争の教訓としての戦略的思考

2001 年 10 月に開始されたテロリズムとの戦いは、米軍の精密誘導兵器をはじめとした圧倒的な力により、約 2 ヶ月半という短期間でアフガニスタンのタリバーン政権を崩壊させた⁵⁷。ところが、2014 年 12 月の米大統領による戦闘完了宣言を戦いの終結とするならば、対テロ戦争は 13 年以上を要したことになる。米国の圧倒的な軍事力は、作戦当初では大きな成果を得たものの、テロ勢力が非対称的な手段を採用するようになり、任務達成には方法や手段を再構築しなければならなかったのである⁵⁸。

2011 年 10 月、統合参謀本部議長のデンプシー (Martin E. Dempsey) 大将は、10 年間の教訓を学ぶことを確実にするための分析をスタッフに指示し、統・連合作戦分析 (Joint and Coalition Operational Analysis: JCOA) 部門は、2012 年 6 月、「戦争の 10 年間 第 1 巻 (Decade of War, Volume I)」を報告した⁵⁹。この報告では、9.11 以降の 10 年間で、過去 50 年間の外交政策を導いた冷戦モデルは、もはや新興の国際情勢に適合しないこ

⁵⁶ 佐川「作戦術とは (1/2)」57 頁。

⁵⁷ 柿原国治「9.11 パラダイム・シフト：対テロ戦争の行方と米国の新国防戦略」世界平和研究所、2002 年、1 頁、www.iips.org/research/data/bp287j.pdf。

⁵⁸ Joint and Coalition Operational Analysis (JCOA), A division of the Joint Staff J7, “Decade of War, Volume I: Enduring Lessons from the Past Decade of Operations,” Jun 15, 2012, p. 7, handle.dtic.mil/100.2/ADA570341.

⁵⁹ Ibid., p. v.

とが明らかになったとするとともに、米国政府と軍が異なる脅威と環境に適した戦略と力を適用したことで、この 10 年間の前半の作戦には多くの誤解や挑戦があったとしている⁶⁰。また、この報告では、教訓及び課題として、「環境の理解：作戦環境を見極め、認識し、正しく定義することができなかつたため、軍隊、能力、任務、目標の不一致が生じた」ことをはじめとした、11 個の戦略テーマについて論じられている⁶¹。一方で、RAND 研究所のレポートでは、JCOA の分析も踏まえつつ、イラクとアフガニスタンの戦争はユニークで前例のないものとして描かれるが、国家を主体とした従来の戦闘から非国家を主体とした統合軍の戦闘までの広範な地上戦の進化の範疇であり、陸軍は戦術的及び作戦的な教訓は学ぶが、戦略的な教訓をあまり学んでいないと論じている⁶²。

これらのことから、13 年にわたる対テロ戦争の教訓の一つとして、戦略的思考の欠如や戦略的思考ができるリーダーの必要性が浮かび上がる⁶³。このことは、統合参謀本部議長のデンプシーが 2012 年に発出した 3 つの白書に加え、2013 年に発出した「統合軍 2020 に向けたリーダーの特性 (Desired Leader Attributes for Joint Force 2020)」において、何らかの形で戦略的思考やリーダーシップの不足を強調していることにも合致している⁶⁴。

(2) 21 世紀における戦略的思考の重要性

戦略的思考の強調は、対テロ戦争の教訓の一つではあるものの、実際には、その他の要因と相俟ったものと考えらるべきである。国防省は、2012 年 1 月、「米国のグローバルなリーダーシップの維持：21 世紀の国防の優先順位 (Sustaining U.S. Global Leadership: Priorities for 21st Century Defense)」と題した戦略指針を発表した⁶⁵。対テロ戦争の 10 年間と財政

⁶⁰ Ibid., p. 1.

⁶¹ Ibid., p. 2.

⁶² Linda Robinson et al., *Improving Strategic Competence: Lessons from 13 Years of War*, RAND Corporation, 2014, p. 8.

⁶³ Ibid., pp. xi-xii; Daniel H. McCauley, “Rediscovering the Art of Strategic Thinking: Developing 21st-Century Strategic Leaders,” *Joint Force Quarterly*, No. 81, Apr 2016, p. 27.

⁶⁴ Chairman of the Joint Chiefs of Staff, “Mission Command White Paper,” Apr 3, 2012, www.dtic.mil/doctrine/concepts/white_papers/cjcs_wp_missioncommand.pdf, accessed Sep 1, 2017; CJCS, “Joint Education”; CJCS, “Profession of Arms”; CJCS, “DLAs for Joint Force 2020”; McCauley, “Rediscovering the Art of Strategic Thinking,” p. 27.

⁶⁵ Department of Defense, “Sustaining U.S. Global Leadership: Priorities for

的圧迫を背景とした米国の戦略的な転換点として、国防省への大統領の戦略的方向性を反映したこの文書は、より小さく引締まって、機敏で柔軟性があり、よく準備され、技術的優位性を確保した統合軍を形成するとともに、高品質で経験のある専門家によってこれを導くとしている⁶⁶。

これに対応するかたちで、統合参謀本部から「統合作戦におけるキャプストーン・コンセプト：統合軍 2020 (Capstone Concept for Joint Operations: Joint Force 2020)」が発行された⁶⁷。この中で、将来の統合軍は、国境を越えた安全保障上の課題を特徴とした、ますます複雑、不確実で、競争が激しく、急速に変化し、公開された作戦環境に直面するだろうと予測されている⁶⁸。

これらのことから、対テロ戦争の教訓と相俟って、将来の複雑、不確実で、変化が高速で激しいといった安全保障環境の予測と、これに対応、対処する統合軍の構想が戦略的リーダーシップや戦略的思考の強調に繋がっているとと言える。

(3) JPME/PME における戦略的思考力の強化

2012年7月、統合参謀本部議長のデンプシーはNDUでの講演で、NDUが現在のやり方から脱却し、統合の兵士や国家をより良く支援するという意図を明確にした⁶⁹。

2年間の検討を経て、NDUのマーティン (Gregg F. Martin) 総長 (President) とヤーガー (John W. Yaeger) 学長 (Provost) は、NDUの変革について説明する「ブレイクアウト (Break out)」を発表するとともに、DLAs と対テロ戦争の教訓を教育カリキュラムに反映する統合教育改革 (Joint Education Transformation : JET) を実行した⁷⁰。JETでは、「NDUは、我々のカリキュラムをどのように提供するかを創造的に適応

21st Century Defense,” Jan 2012, archive.defense.gov/news/Defense_Strategic_Guidance.pdf.

⁶⁶ Ibid.

⁶⁷ CJCS, “CCJO,” p. iii.

⁶⁸ Ibid., p. 15.

⁶⁹ Gregg F. Martin and John W. Yaeger, “Break Out: A Plan for Better Equipping the Nation’s Future Strategic Leaders,” *Joint Force Quarterly*, No. 73, Apr 2014, pp. 39-40; Martin E. Dempsey, “Investing in the Minds of Future Leaders,” *Joint Force Quarterly*, No. 74, Jul 2014 p. 5.

⁷⁰ Martin and Yaeger, “Break Out”; National Defense University, “Joint Education Transformation Initiative,” Apr 2014, www.ndu.edu/Portals/59/Documents/JET/NDU%20Joint%20Education%20Transformation.pdf?ver=2014-06-04-113656-717.

し、より少ない資源で、より複雑な将来のためにより良いリーダーを育成しなければならぬ」とし、学生個々の経歴等に応じたプログラムを適用できるようにしている⁷¹。

具体的には、第1段階を戦略的リーダー基礎コース（Strategic Leader Foundational Course : SLFC）として、DLAs や対テロ戦争の教訓、戦略的分析と批判的思考等を、第2段階では OPMEP で示された中核となるカリキュラムを教育するとともに、第3段階では学生が選択した科目や研究プロジェクトを行うという3段階でカリキュラムを構成している⁷²。そして、JETによる効果の一つとして、第3段階におけるメンターの直接指導の下での問題解決の証明は、最初の2つの段階で養われた批判的思考力に基づいており、将来の複雑で動的な安全保障環境に備えることが期待できるとしている⁷³。なお、2015 会計年度のカリキュラム開発の方針では、SLFC での能力養成に、批判的思考のほか、創造的思考 (creative thinking) も加えられている⁷⁴。つまり、容易に見通すことができない将来において、批判的思考や創造的思考といった戦略的思考が結論を導く方法論として必須になっているということである。

このように、対テロ戦争における教訓の一つとしての戦略的思考の強調は、将来の複雑で動的な安全保障環境における結論を導く方法論として JPME/PME に反映されているのである。

おわりに

本稿は、米軍 JPME/PME の変遷をたどるとともに、なぜそのような変化が起こったのかを考察することで、教育の視点から、米軍が学習する組織として自己革新を続けていることを明らかにした。また、その過程においては、今後の安全保障環境を踏まえ、結論を導く方法論に焦点を当てた。まず、第1節では、米軍 JPME/PME の変遷を概観するとともに、

⁷¹ Christopher J. Lamb and Brittany Porro, “Next Steps for Transforming Education at National Defense University,” *Joint Force Quarterly*, No. 76, Jan 2015, p. 45; NDU, “JET Initiative.”

⁷² Martin and Yaeger, “Break Out,” pp. 41-42; NDU, “JET Initiative.”

⁷³ Martin and Yaeger, “Break Out,” p. 42.

⁷⁴ Office of the President, “Memorandum for all NDU staff and faculty, subject: Policy Guidance for Developing Curriculum for AY 2015-16”, National Defense University, Apr 9, 2015, www.ndu.edu/Portals/59/Documents/BOV_Documents/2015/May/Policy%20Guidance%20for%20Developing%20Curriculum%20for%20AY%202015-16.pdf.

GNA と対テロ戦争がその変化に大きな影響を与えたことを明らかにした。続く、第 2 節では GNA の発端となったベトナム戦争の教訓の一つである作戦術が、そして、第 3 節では対テロ戦争の教訓としての戦略的思考の強調が、それぞれどのように JPME/PME に反映されていったのかを考察した。

結論を導く方法論として、ベトナム戦争の教訓からは、戦略と戦術を繋ぐ方法論である作戦術を見出すとともに、中級士官の教育に反映させることとで、「砂漠の嵐」作戦でその成果を見ることになった。なお、JPME/PME の指針である最新版の OPMEP においても、作戦術は中級士官教育の焦点の一つとして掲げられている（別紙参照）⁷⁵。対テロ戦争の教訓からは、戦略的思考の強調を見出し、上級士官の教育に反映され、将来の米軍を導くリーダーの必要な要件となっている。どちらも、得られた教訓を自分たちのために活かし、改革に繋がられていることから、教育の視点からであるが、米軍が自己革新するために学習する組織であり続けていることの証になるであろう。

米国における安全保障の中核を担う米軍は、より複雑で不確実、変化が急速でダイナミックといった安全保障環境において、国益を確保し続けるため自己革新を継続している。このことから、日本の安全保障の中核を担う防衛省・自衛隊は何を学ぶべきであろうか。米軍では OPMEP により、統合を見据えた教育体系を構築するとともに、DLAs を明示することで、将来の米軍を導くリーダー像を明らかにしている。また、作戦術を中級士官に、戦略的思考を上級士官に教育することで、学習する組織としての基礎を充実させている。このことは、人材育成や活用について、今後ますます真摯に取り組む必要がある防衛省・自衛隊にとって、大きな資となるであろう。そして何よりも、これまで幸いなことに未だ戦争を経験していない自衛隊にとって、自衛隊こそが自己革新を継続できる組織として在り続けなければならない、自己革新に尽力できる人材を育成していかなければならないということを改めて認識させてくれている。

⁷⁵ CJCSI, “OPMEP,” CJCSI 1800.01E, A-A-A-1.

士官軍事専門職教育の体系

	O-1/O-2/O-3 初級	O-4 中級	O-5/O-6 上級	O-7/O-8/O-9 将官
教育する学校、 課程等	●職種科学学校 ●初級PMEコース	●軍種指揮幕僚大学 ●JFSC ●国防情報総合大学 等	●軍種大学 ●NWC ●JFSC 等	●キャプブストーム・コース ●統合機能構成部隊指揮官 ●コース 等
戦争のレベル	戦術	作戦	戦略	
教育の焦点	●指定職種の専門性 ●ドメインの知識（陸、空、海、宇宙、サイバー）	●作戦術から見た戦闘 ●戦域戦略と計画、国家軍事・国家安全保障戦略の導入 ●全ドメインでの作戦術 ●統合リーダーの育成	●戦域戦略と戦役、計画のプロセスとシステム、統合・機関・政府間・多国籍の能力と情報 ●戦略的リーダーシップ／リーダー育成、戦域・国家軍事・国家安全保障戦略	●統合に関することと国家安全保障 ●機関間のプロセス ●多国籍作戦
統合	統合の意識	JPME フェーズI	JPME フェーズII	キャプブストーム
DLAs	① 安全保障環境と国家安全保障の手段を理解していること ⑥ 驚きと不確実性を予測し対応できること ⑤ 変化を予測し認識するとともに移行を導くこと ④ 信頼、委任、理解を通じて意志をもって実行できること ③ 軍事専門家として倫理的決定を下すこと ② 戦闘の全てのレベルにおいて、批判的／戦略的に考え統合の戦いの原則を適用すること			

出典：CJCSI, "OPMEP," p.A-A-1 をもとに、筆者邦訳（抜粋）。